



パース通信



Vo.2

今年度1年間交換教員として、オーストラリアのパースに赴任している英語科伊東が、オーストラリアや海外から見た日本についてお伝えします。

さて、皆さん。創刊号では、パースの観光についてお話すると予告していましたが、少し予定を変えて、私が勤務している学校についてお話ししたいと思います。

まず、私の勤務校についてお話するためには、西オーストラリアを取り巻く環境と、歴史について少し触れておく必要があります。

まず、オーストラリアの国土は、皆さんご存知のとおりとても大きくて、世界第6位。意外と知られていないのですが、実は日本はそれほど小さな国ではなく、200を超える国の中で61位。では、人口はどうかというと、日本は約1億2600万人で10位（2016年）ですが、オーストラリアは約2430万人で53位です。国土は20倍ですが、人口は1/6に過ぎません。それが何を意味するか。広大な国土に比して、人がそれほどいないということです。

西オーストラリア州の人口は約250万人、そのうち92%は首都のパースに住んでいます。面積は、全土の約1/3。兵庫県の人口が550万人ですから、その少なさが際立っているのがわかると思います。そうするとどうなるかわかりますね。パースに住んでいる生徒であれば、問題なく学校にも通えるのですが、遠隔地にいる生徒は、学校に通うことができません。そこで、昔からオーストラリアでは、遠隔地教育（通信教育）が発達していました。

今私が勤務している学校の名前は、School of Isolated and Distance Education (SIDE) と言います。日本でいう通信教育のような学校です。

この学校には、1000キロ離れた町に住んでいる生徒もいます。また、私が授業して

いる生徒には、海上のヨットに住んでいる生徒もいます。また、バレエの有望な若手で、普通の学校に行けない生徒や、テニスを本格的にやっている生徒もいます。

このように様々な理由で普通の学校に通えない、小学生から高校生までの児童・生徒がこの学校で学んでいます。

また、オーストラリアの外国語教育についてお話をします。先にも触れたように、オーストラリアは広い国土に対して人口がとても少ない国です。経済的な発展を考えると移民を多く受け入れる必要があります。また、貿易について考えると、オーストラリアは、鉄鉱石やボーキサイト（アルミニウムの原料）などの天然資源や食料が豊富な国です。日本でもオーストラリア産のビーフ、オーギービーフはどこでも買えますね。アジアの国々に天然資源と食料を輸出して、電化製品や車などを輸入しています。つまり、経済的にアジアの国々と強い結びつきがあります。そうした背景もあって、外国語教育に力を入れています。移民が多いこともあって、ヨーロッパの言語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語があり、アジアの言語では、日本語、中国語、インドネシア語、ベトナム語などが教えられています。

私の勤務校では、日本語、フランス語、イタリア語、インドネシア語の4つの授業が選択できます。

そうした環境の中で私は、Year3からYear12までの児童・生徒たちに日本語の授業を行っています。

日本では英語を教えていましたが、英語で日本語を教える、しかも、パソコンの画面上の仮想教室で、音声だけを使って教えるのは非常に難しいですが、やりがいをととても感じています。

<http://www.side.wa.edu.au/index.php>

